

このたび、長野計器株式会社殿（以下：長野計器）が所蔵する分銅式標準圧力計が国立科学博物館より重要科学技術資料（以下：未来技術遺産）として認定され、9月13日に認定証の授与式が開催されました。

長野計器は昭和23年の企業再建法によって当社と分離され、

圧力計事業を受け継いだ企業です。現在では水ビジネスの

グローバル展開に向けて計測機器事業において業務提携をしています。

このたび未来技術遺産として認定された分銅式標準圧力計は、東京計器製作所（当時）が大正13年に生産し

「中央度量衡検定所福岡支所（現 独立法人産業技術総合研究所）」に納入された圧力試験装置で、

圧力計の検定に使用されたものです。明治44年に特許を取得した和田式圧力試験器と基本的に同型のもので、

これは2,000kgf/cm²（200MPa）まで加圧できる画期的な圧力試験装置でした。

ピストン・シリンダーと重錘によって基準圧力を発生させるという原理は現在でも圧力試験器の基本となっています。

国立科学博物館では、次世代に引き継ぐべき資産となる技術遺産を「未来技術遺産」に登録して

後世に残すという活動を続けており、分銅式標準圧力計の優れた技術とアイデアは

将来に亘って残すべき歴史的価値があると高く評価されました。

なお、28年度は日本で最も普及した16ビットパソコンとして知られるはNECの「PC-9801シリーズ」や、

酵素配合洗剤を初めて市場投入したライオンの「酵素パワーのトップ」など

16品目が未来技術遺産に認定されています。長野計器が

未来技術遺産の認定を受けるのは2回目であり、2011年には当社の創業者である和田嘉衛が

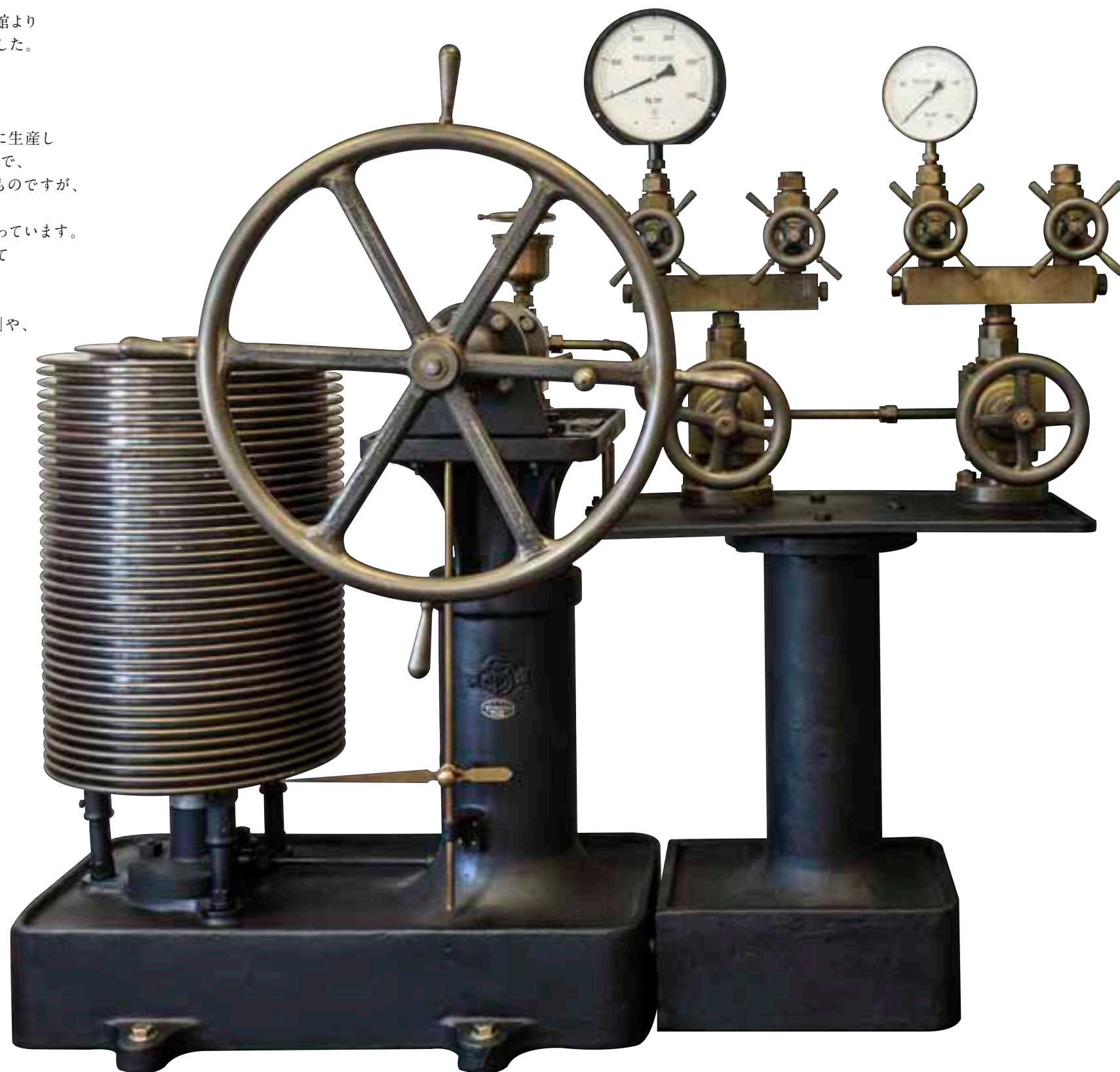
日本初となる圧力計の製作にあたって使用した「金敷と金槌」および

「3本ローラー式ブルドン管成形機」が認定されています。これら2点と分銅式標準圧力計は、

現在、長野計器のテクニカルソリューションズセンター資料室にて展示保管されています。



認定証と記念の盾



未来技術遺産に認定された分銅式標準圧力計（長野計器株式会社テクニカル・ソリューションズ・センター殿所蔵）